

八幡自治振興センターのメタセコイア（未指定）

所在地：庄原市東城町森

指定年月日：未指定

所有者：庄原市

根回り周囲：5.40m

胸高幹囲：4.29m

樹高：約 30m

本樹は、八幡自治振興センターのグラウンドの端に所在する。

メタセコイアは、スギ科メタセコイア属の針葉樹で、一属一種である。和名はアケボノスギという。葉は、モミやネズに似て線のように細長く、長さは3cm程度、幅は1.2mm程度で、羽状に対生。秋に赤茶色に紅葉した後落葉する。樹高は、成長すると25～30m、直径1.5mとなる。雌雄同株で、花期は2月～3月。雄花は総状花序、あるいは円錐花序となって枝から垂れ下がる。結実は多く、秋から冬にかけて無数の種が地表に落ちる。

旧森小学校の跡地に位置する本樹は、1949年に米国から国と皇室がメタセコイアの挿し木と種子を譲り受け、全国各地に植えられたことを期に植栽され、今日まで八幡地域のシンボルとして守られてきた。

本来メタセコイアは、化石から発見されたものである。

